

イラク及びシリアにおけるテロリスト／過激派組織による暴力と残虐行為の台頭 に関する東アジア首脳会議（EAS）声明

東アジア首脳会議参加国の首脳は、イラク及びシリアにおけるテロリスト／過激派組織による暴力と残虐行為の台頭に関する2014年9月26日のASEAN外相声明を歓迎した。

東アジア首脳会議は、自らISILと称する組織並びにその他イラク及びシリアにおけるテロリスト／過激派組織及び過激派グループによる暴力と残虐行為の台頭に深い懸念を表明し、技能及び専門知識を得てテロリスト・ネットワークに参加したこれらの者は、イラク及びシリアの人々に対してのみならず、こうした者の母国や世界中の第三国に対する脅威となっていることを留意する。

首脳は、イラクの新政府に対する支持を確認し、同政府に対し、全てのイラク国民の利益を代表し、保護することによって、同国を統合する包含的な政策の立案及び実施を促した。首脳は、ISILによるテロ行為の被害者に対する支援提供、及び継続的な人道的支援の重要性を強調した。

首脳は、破壊と暴力の全てのテロ行為を強く非難し、全ての形態及び主張のテロリズムを非難するとともに、その根源的原因に対処し、テロリスト・ネットワークや資金チャネルを分断することによってテロリズムの予防と鎮圧を目的とするASEAN対テロ協定やASEAN対テロ包括的行動計画を適切に実施することを含め、地球規模の行動によってテロリズム、特に外国人テロ戦闘員問題に対処することへのコミットメントを改めて表明した。

首脳は、国際社会に対して外国人テロ戦闘員の移動を抑圧するよう求めた国連安全保障理事会決議2170（2014）、テロ行為の実行、計画、準備やそれへの参加、又はテロリストとしての訓練を提供し又は受けること、並びに渡航や活動への資金提供をするために、自身の居住地国や国籍国以外の国へ渡航しようとする個人を、募集し、組織し、移動し又は装備させることを予防し、抑圧することを決定した決議2178（2014）を支持することを再確認した。

首脳は、テロリズムには包括的な方法で対処しなければならず、それは、テロリズムを支える要因に対処すること、テロリズムへの急進化を予防すること、資金提供や武器供与など支援メカニズムを分断すること、民間人の生命の犠牲や民間に属する物品に対する損害を回避するために可能な全ての措置をとること、政治的及び宗教的な寛容さ、経済発展、社会的一体性及び包含性を促進することを含め、多角的なアプローチを必要とするものであることを確認した。

首脳は、穏健性は、長く持続する平和を追求するための要因であり、かつ過激主義やテロリズムに対抗し、緊張を緩和し、急進化を無効化するためのツールであることを認識し、暴力的な過激主義に対抗するための戦略策定に、関係する地元コミュニティや非政府主体を関与させるために国連安全保障理事会決議2178の関連規定への支持を改めて表明した。

首脳は、不寛容、暴力的かつ戦闘的な過激主義に対抗し； 経済的、政治的、社会的正義を実現し； 過激主義の声をかき消すために異なる文化、宗教、文明間のより広範な協力と理解を呼びかけるため； 「グローバルな穏健派の行動」が穏健派のアジェンダを前進させることに対する支持を確認した。

東アジア首脳会議は、過激主義、急進主義及びテロリズムとの戦い、また、更なる暴力と残虐行為を国際法と国連憲章に従って予防するため、国際社会と協働することに対するコミットメントを改めて表した。

ネーピードーにおいて、2014年11月13日、第9回東アジア首脳会議において採択した。